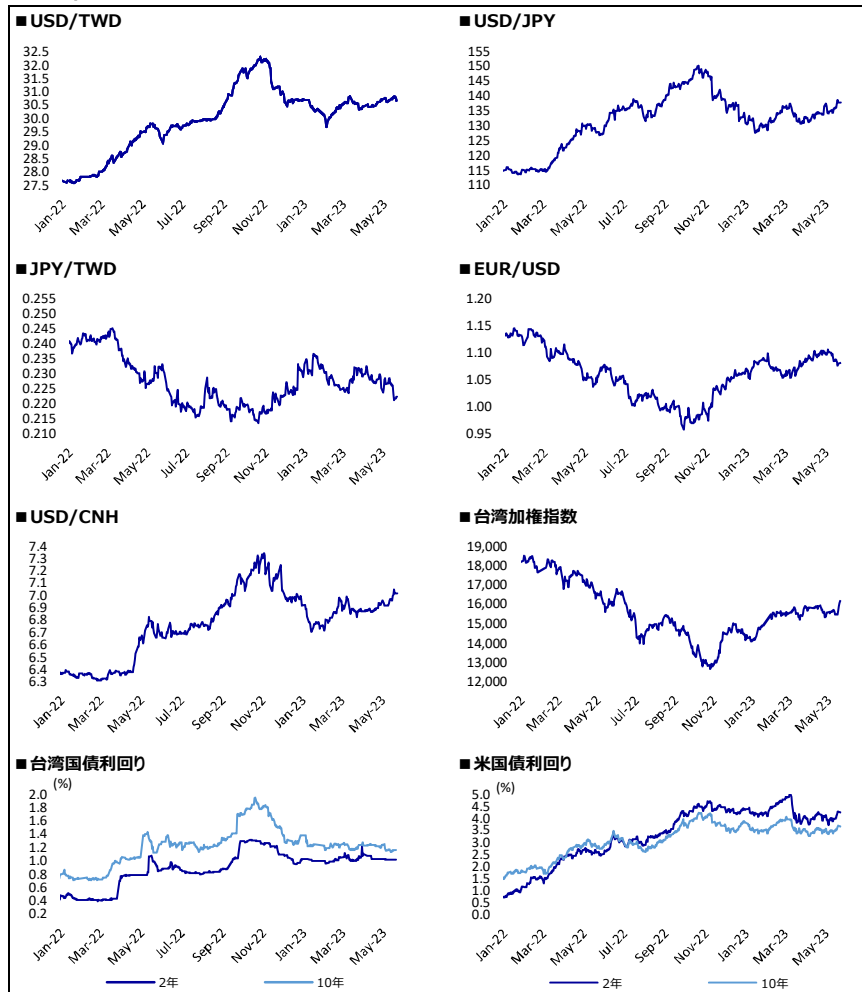


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/15は前週末の米経済指標を受けたドル高や外国人投資家の台湾株の売り越しにより30.800とギャップアップして、オープン後、30.81付近での推移が続いた。5/16は台湾株が反発したことから30.7台半ばまで下落するも、ドルインデックスが上昇したことや輸入企業のドル買いから30.8台に戻した。5/17は一時30.838まで上昇したものの、米債務上限問題について楽観的な見通しから台湾株が買われると一時30.8台を割り込んだが、人民元が対ドルで下落したことや、海外への投資資金のフローからドルが買い戻され、30.82付近で推移。5/18はリスクオンの流れから台湾加権指数が約11か月ぶりに16,000ポイント台に乗せるとドル台湾ドルも30.7台前半まで下落。しかし、ドルが全面高となる中、輸入企業や国内投資家のドル買いもあり、底値は堅かった。5/19も台湾株が上昇すると外国資本が流入し、一時30.658まで下落。最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の30.682で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は778.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/15は135.60でオープン後、実需のドル買いや米金利の上昇を受けて136円台前半まで上昇したが、米5月ニューヨーク連銀製造業景気指数が予想を大幅に下回ると、135円台後半まで下落。しかし、FRB高官からのタカ派発言を受けて、136円台前半まで戻した。5/16はクロス円の下落もあり、一時135.68まで下落したが、米4月小売売上高のコア指数や米4月鉱工業生産が予想を上回り、136円台半ばまで上昇。5/17は日経平均が3万円台の台を回復させる中、ドル円はじり高の展開に。また、米債務上限問題に関して「21日までに合意する事は可能」とのヘッドラインが伝わったことから、リスクオンの流れに。米株高・米金利上昇とともにドル円も137円台後半まで上昇した。5/18は米新規失業保険申請件数が予想より良好であったことやFRB高官からタカ派発言もあり、ドル円は昨年12月以来の138円台を回復し、その後も上値を追い、一時138.75をつけた。5/19はパウエルFRB議長からハト派な発言があったことや、米債務上限問題を巡る協議が一時中断したと伝わると137円台半ばまで下落したが、週末を控え、138円付近に戻し小動かな展開となった。最終的に先週比1.6%ドル高円安の137.93で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.550-30.800
今週は底値が堅いと見込む。先週はリスクオンの流れから台湾株が反発したが、再び債務上限問題の不透明感が増しており、一方に台湾ドル買いとはなりにくいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：136.00-139.00
今週は上値の重い展開を見込む。先週は債務上限問題について、楽観的な見通しが広がったものの、週末にかけて再び不透明感が広まった。またパウエルFRB議長からも利上げについてけん制するような発言があったため、新たな材料がないと上値を追いくい展開か。今週の各種経済指標にも警戒したい。

今週の予定

5/22 (MON)	台湾4月輸出受注、台湾4月失業率
5/23 (TUE)	米5月製造業・サービス業PMI、米4月新築住宅販売件数
5/24 (WED)	FOMC議事要旨
5/25 (THU)	米4月中古住宅販売件数
5/26 (FRI)	台湾Q1GDP改定値、米4月個人所得・支出、米4月耐久財受注米5月シカン大消費者信頼感指数(確報値)

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。